

## MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会長 細谷 誠  
幹事 松村 昌子  
会報委員長 内海 慶介

## お知らせ

## 2月のプログラム

5 (No.1)-客話  
12 (No.2)-クラブフォーラム・卓話  
19 (No.3)-客話

## ニコニコBOX;

良いことがありました  
夏見君

<ニコニコ会計累積/¥162,500>

## がんばるBOX;

塩田委員長、高岡会員楽しく  
興味深いお話ありがとう  
ございました

細谷君  
卓話を終えて  
高岡君  
楽しい経験をしてきました  
福田君  
7年半お世話になりました  
次週例会が最後となります  
谷川君  
クラブフォーラムを終えて  
塩田君

<がんばる会計累積/¥149,000>

例会場・事務局  
丸亀市塩飽町48-1  
丸亀プラザビル

## ■会長挨拶

天気予報によると寒さはひとまず山を越えそうですが、これからは花粉と黄砂の季節、息つくひまありませんが、皆様お体には十分お気をつけください。

ところで、昨日当クラブが共催しているロータリー杯争奪ミニバスケットボール大会に行ってきました。小学6年生最後の公式試合ということもあり、子供たちも保護者、指導者の皆さんも大変な気合いの入れようで盛り上がり、この大会を共催することで子供たちの夢を応援できていることを実感できました。

ところでバスケットボールの面白いところというか特徴のひとつは、とにかく立ち止まって考えるとすぐに反則になってしまうところだと思います。指導者の方は子供たちに「走りながら考えろ」って教えるそうです。走っている最中に状況を素早く判断して自分でシュートを打ったり切り込んだり、あるいはパスを出すといった瞬間的な判断をする力がこのスポーツでは確かに養われると感じました。見る方からすれば野球のピッチャーとバッターの少し時間をかけた駆け引きとはまた違った面白さがそこにはあります。私のように考えてから行動する、考えるけど行動はしない、あるいは考えるふりだけするような人間は子供の頃もっとバスケットボールをやっていたらよかったです。と考えるとふりをした次第です。

## ■次年度理事会報告

## ①新役員の承認について

親睦委員会委員長 谷川会員が転勤の為荒川会員に交代

## ■例会事業;クラブフォーラム 会員卓話

## ●クラブフォーラム 青少年奉仕委員会 塩田委員長

クラブフォーラム青少年奉仕委員会として、青少年奉仕の本質についてお話させていただきます。青少年奉仕とは、単なる教育やボランティア体験ではなく、次の時代を担うリーダーを育て、社会をより良くしていく力を育むことだと考えています。そのため大切なのが、「自分で考えて行動する力」「国際理解の心」「奉仕の精神」の三つです。インターアクトやローターアクト、留学制度、ライラなどの活動を通して、若者は多くの経験を積み、大きく成長していきます。当クラブでも、ミニバス大会や施設支援などを通して、子どもたちがロータリーに触れる機会をつくり、未来への種まきを続けています。こうした経験が、将来のリーダー育成につながっていくと感じています。また、ロータリーの青少年奉仕は、時代とともに役割を変えてきました。かつては福祉や救済が中心でしたが、現在はリーダーシップ育成へと重点が移っています。私たちは若者を支援する立場であると同時に、対等なパートナーとして寄り添い、見守る姿勢が大切です。さらに、私たち自身も若い世代から学び、柔軟な発想やデジタルの力をクラブ運営に生かしていくことが重要です。ロータリーの未来は、私たちが関わった若者の中にあります。これからも皆さんと力を合わせ、持続可能な青少年奉仕を目指して取り組んでまいりたいと思います。彼らが将来、ロータリアンとなるような環境づくりを行うことが必要で、ロータリーの持続可能性を高めることにもなります。

## ●会員卓話 高岡仁 会員

私は、正直に言って恥ずかしい気持ちもありますが、今できる精一杯で頑張ります。丸亀ロータリーに入会して34年目になりますが、先輩方の背中を追いかけるだけで、十分な貢献ができているとは言えません。それでも、会費を納め、行事に参加しながら少しでも役に立ちたいという思いで続けてきました。



2026.2.12  
Vol.63  
№23  
(3002)

私は昭和25年生まれで、幼い頃から野球に打ち込み、高校卒業後は写真の世界に入りました。最初は何も分からないまま、横浜のスタジオで厳しい修行を重ね、低い給料の中でも必死に技術を身につけました。その経験が、今の自分の土台になっています。28歳で地元・丸亀に戻り、写真館を開業してから約50年、ひたすら現場で腕を磨いてきました。

しかし今、写真業界は大きな転換期を迎えています。スマートフォンや異業種の参入により、記念写真の需要は減り、専門店は激減しました。香川県でも、かつて130件あった写真館は、今では30件ほどにまで減っています。学校写真に頼らざるを得ない現状の中で、人手不足や低価格競争にも苦しんでいます。

それでも私は、この仕事に誇りを持っています。昔はフィルムを暗室で扱い、失敗できない緊張感の中で一枚一枚に魂を込めていました。その姿勢は、デジタル時代になった今も変わりません。写真には、人の人生を残す力があります。

これからも簡単な道ではありませんが、責任ある仕事として、最後まで誠実に向き合い、次の世代につなげていきたいと思えます。支えてくださる皆さまに感謝しながら、これからも前を向いて歩んでまいります。